

常德寺のシダレザクラ

常德寺の墓地にそびえ立つ樹齢 250～300 年の 2 本のシダレザクラは、4 月下旬に開花すると、農家の人たちに農作業の準備を促す合図となっていた。一般的な開花時期にあたる4月25日は、白川の代表的な仏教宗派である浄土真宗の有力者、蓮如（1415-1499）の命日である。この日は、地元の人が常德寺の桜の下に集まって蓮如を偲ぶのが恒例となっていた。

日本の墓地には桜の木がよく見られる。その理由はいろいろあるが、よく言われるのは、桜の開花期間の短さが人の命の短さを象徴していると考えられることだ。民俗学者の柳田國男（1875-1962）によると、桜と死の関係は遠い古代にさかのぼり、死者が桜の木の下に眠ることで、その魂がこの世ではない美しい春の花となって、わずかながらも生の世界に戻ってくると考えられていた。